

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2012年10月1日

109号



暑さを忘れる涼しい花ジャカランダ

薄紫色のジャカランダの花は、少し寂しげなそれでいて限りなく気品を感じるラッパ型の花です。昔から日本では紫が高貴を表す色だからそう思うのでしょうか。房のようにまとまって枝ごとに咲いて、最盛期は小さな緑の葉を覆い尽くすほどに木全体が紫色に涼やかに萌えます。こうした木が集まると山全体が紫色に覆われ、それは壮観です。アスンシオンでも、ブラジルやアルゼンチンでも見ました。アフリカでも咲いているそうです。レダでも毎年この花の咲く時を楽しみに植樹したジャカランダの木々の手当をして来ました。(写真はレダ第一植樹園)また、木の実は独特の硬い甲羅で覆われた直径7~8cmの茶色の硬い鎧を着ていますが、割ると二列に薄い羽をつけた種が綺麗に並んでいて、神の創造の技の素晴らしさに感動を覚えます。

◎ジャカランダ

科名:ノウゼンカズラ科 属名:ジャカランダ属 性状:常緑高木

原産地:アルゼンチン、ボリビア 特徴:熱帯、亜熱帯各地で街路樹として広く利用されている高さ15mにもなる高木ですが、幼樹は鉢物として観賞用にできる。藤紫色の花が美しいが、鉢植えではありません咲かない。(飯野記)

奉仕隊・マリア村の活動



田を元気に出発したボランティア隊は、途中ドイトのフルトに到着。次は、夜間の飛行で、次シオングラジルのサンパウロに朝到着。そして、クラグアイのアスンシオンへ。二十七日の朝、クラグアイの青年奉仕隊四人も加わり、バスでドイツ人が開拓したローマプラタに移動。二十八日には、がた道を、マリアアウシリアドーラ村に到着しました。夕方からマリア村に向かって出発。八時間かけて到着しました。植樹活動に入りました。植樹活動で、青年奉仕隊のメンバーの歓迎会があり、二十九日、植樹活動に入りました。



ほぼ完成した校舎の前で植樹完了



八月二十五日に成田を元気に出発したボランティア隊は、途中ドイトのフルトに到着。次は、夜間の飛行で、次シオングラジルのサンパウロに朝到着。そして、クラグアイのアスンシオンへ。二十七日の朝、クラグアイの青年奉仕隊四人も加わり、バスでドイツ人が開拓したローマプラタに移動。二十八日には、がた道を、マリアアウシリアドーラ村に到着しました。夕方からマリア村に向かって出発。八時間かけて到着しました。植樹活動で、青年奉仕隊のメンバーの歓迎会があり、二十九日、植樹活動に入りました。

奉仕隊ミンガグアス市プロジェクト

市と

南北米福地開発財団（以下NSA）で共同企画している環境保全一日キャンペーンの集会に参加しました。市の職員、教育関係者そして中学高校の生徒を交え二百名を超える集会になりました。集会が始まる前にNSAで作った植樹キヤンペーンのシャツを皆さんに配り、市の職員の方の司会で集会が始まりました。

初めに市長からNSAと青年奉仕隊に対する感謝の言葉とミンガグアスにおける環境保全活動の取り組みについて話があり、その後、中井重幸NSA副会長からNSAパラグアイのビンの踊り。日本イグアス移住地にある和太鼓のグループによる演奏が続き、最後に青年奉仕隊の合唱で十

が地球環境の悪化を止め、自然を愛する精神から始まつたことを語り、更に青年奉仕隊の紹介をしました。

その後、青年奉仕隊の映像を見もらいました。市の職員の方から市の環境保全の計画と実行に対する説明と学校の生徒らが市の計画にのつとつて実践する誓いを表明し、その後、和太鼓のグループによる演奏が続き、最後に青年奉仕隊のメンバーによる合唱で十時ごろ集会を終えました。青年たちの合唱の前に柴沼の方から市長さんはじめ、市の職員、学校関係者による準備された百個の植樹の穴に苗木を青年奉仕隊のメンバーと学生、職員が一緒になつて植え付けをしました。（柴沼記）



3万本植樹のまず1本



感謝のあいさつをする市長



奉仕と笑顔は国を越えて

パラグアイ国・パンタナール地域・南部地域の植樹

2012年8月25日～9月11日

日本の南北米に感謝 念願の屋根が完成しました



室内から見た屋根



修理前は屋根がありませんでした

さて、レダからローマプラタに行くたびにマリアアウシリアドーラに寄っています。一度はパクーを持って行って校長を含め3家庭にあげたら喜んでいました。（近くに川はなく魚は手に入りません）

今回は、このところ乾燥が続いていたのでニームの苗木を25本ほど持って行きました。みんな喜んでいます。植えた街路樹は雨が降っていないので中々四苦八苦というところですが、学校の庭は先生がしっかりと管理してくれ、ブルゲンビリアはすべて花をつけています。

屋根も完成してそこで勉強をしています。その所を撮りたかったのですが、通過した日が日曜だったので校長夫妻（写真右）だけでした。（佐野記）



ブルゲンビリアの花



「日本の皆さんありがとうございました」

第12回国際協力青年奉仕隊に参加して 隊員の感想 (抜粋から)

奉仕の中で人種の壁を越えてマリア村での奉仕隊最後の日は、人種の壁を越え、一つの家族となって働きました。またこの村に来て、奉仕したい。そう願って、その決意と衝動を残して、マリア村を出ました。涙があふれそうでしたが、またこの地に来るんだと決めたので、別れの涙は見せませんでした。この短い期間でしたが、活動する中で、移動する中で日本の中にいただけでは感じられないであろう多くの事を得ることができたことに、限りなく感謝します。（牟田 聖龍）

本当の幸せを考えて 村には遊ぶものがあまりなく、折り紙や携帯で何かやってあげるだけでも、喜んでくれる姿を見る時、物質豊かで、とても便利な生活を送っている私達が、自分たちだけで満足するのではなく、貧しい村などで、少しでも奉仕して、皆幸せになつてくれることが、本当に必要だと思いました。日本にいると、心がすさまむし、物にあふれていても、どこか物足りないが、こうして植樹活動をして、村の人たちが喜んでくれる姿、そして子供たちと遊んでいることにより心が開放され、私も幸せになれたことに感謝しました。

（今成 由利子）



ら 村 すのをいと意す水のを
さん さん。こしろ。いた工ろり注
か吉でと夫ろり注
り



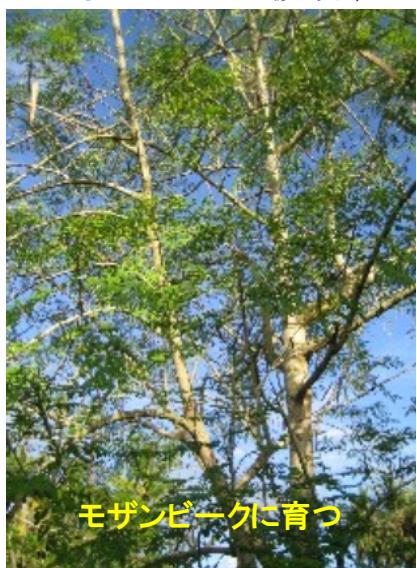
元気に2年目で

住の宝山さんから

日本では、自分の会社の庭に樹高4mに成長したモリンガを育てている会員の方がいます。（写

真左）やはり冬を越すために幼葉を剪定したり、右の写真のモリンガの木は、アフリカのモザンビークの木です。ここに気候にあつたのか、すくすくと成長しました。モザンビークでは、大統領自ら、モリンガが病気の軽減、滋養に良いとして、食用、医用に奨励しています。（モザンビーク在

い
ます。



モザンビークに育つ

て注目されているモリンガの木は、一年で7mくらいに、二年目には十五mくらいになります。白い花をつけ、年に数回咲きます。葉の栄養成分は、地球上の植物では最高といわれるほど、ミネラル、ポリフェノールなど、多くの栄養成分を含んでいます。

レダの種子が世界に緑を

奇跡の木とし

南北米福地開発協会
会員募集中

地球家族として
自然を守りましょう

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、その世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒二一三一〇〇一
神奈川県川崎市高津区

溝口三十一一十五

電話

〇四四一八二九一八二〇一

Fax

八二九一二八二〇一

会費納入

郵便口座
一〇一八〇一七七六八〇四七一

Eメール

office@asd-nsa.jp

ホームページ

<http://www.asd-nsa.jp>